

歴史的仮名遣い・行書の特徴・部首

中学校

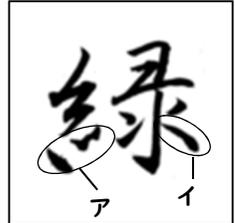
(1) 次は、兼好法師が書いた「徒然草」の一部とその現代語訳です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

古文	現代語訳
<p>おまへ 御前なる獅子・<small>こまいぬ</small>狛犬、背きて、後ろ さまに立ちたりければ、<small>しやうにん</small>上人いみ じく感じて、「あなめでたや。」この 獅子の立ちやう、いとめづらし。深 き故あらん。」と涙ぐみて、……</p>	<p>神社の<small>はいでん</small>拝殿の前に置いてある獅子と狛 犬の像が、背中を向け合って、後ろ向きに 立っていたので、上人はたいへん感銘を受 けて、「ああ、すばらしい。この獅子の立 ち方は、非常に<small>めず</small>珍しい。深いわけがあるの だろう。」と涙ぐんで、……</p>

① — 線部「立ちやう」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。
② || 線部「めでたや」の意味を現代語訳から抜き出しなさい。

①	②
---	---

(2) 次の行書で書いた漢字の○で囲まれた部分の㊦と㊧の特徴として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つずつ選びなさい。



- 1 筆順の変化
- 2 点画の連続
- 3 点画の省略
- 4 点画の方向や形の変化

㊦	㊧
---	---

(3) 次の [] 内の三つの漢字と同じ部首に属する漢字を、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

社 祝 神

- 1 装
- 2 禁
- 3 裁
- 4 地

--

歴史的仮名遣い・行書の特徴・部首

解答

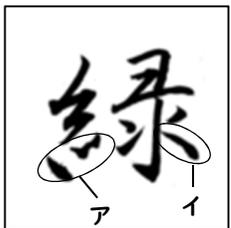
(1) 次は、兼好法師が書いた「徒然草」の一部とその現代語訳です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

古文	<p>御前<small>おまへ</small>なる獅子<small>しし</small>・狛犬<small>こまぬぬ</small>、背<small>せ</small>きて、後<small>のち</small>ろさまに立<small>た</small>ちたりければ、上<small>じやう</small>人<small>にん</small>いみじく感じて、「あなめでたや」。この獅子の立<small>た</small>ちやう、いとめでたうらし。深<small>ふか</small>き故<small>ゆゑ</small>あらん。」と涙<small>なみだ</small>ぐみて、……</p>
現代語訳	<p>神社の拝殿<small>はいでん</small>の前に置いてある獅子と狛犬の像が、背中を向け合<small>あ</small>って、後<small>のち</small>ろ向きに立<small>た</small>っていたので、上<small>じやう</small>人はたいへん感銘<small>かんめい</small>を受けて、「ああ、すばらしい。この獅子の立<small>た</small>ち方は、非常に珍<small>めづ</small>らしい。深いわけがあるのだろう。」と涙<small>なみだ</small>ぐんで、……</p>

① — 線部「立ちやう」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。
② || 線部「めでたや」の意味を現代語訳から抜き出しなさい。

① たちやう	② すばらしい
--------	---------

(2) 次の行書で書いた漢字の○で囲まれた部分の㊦と㊧の特徴として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つずつ選びなさい。



- 1 筆順の変化
- 2 点画の連続
- 3 点画の省略
- 4 点画の方向や形の変化

㊦ 1	㊧ 4
-----	-----

(3) 次の [] 内の三つの漢字と同じ部首に属する漢字を、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

社 祝 神

- 1 装 禁
- 2 裁 地
- 3 裁 地

2